

ある人がイエスに「永遠の命を受け継ぐには、何をすればよいでしょう」と尋ねた（マルコ10・17）。この人は「おきてをみな、子どもの時から守ってきた」人だった。イエスは彼を見つめ、慈しんで言われた。「あなたに欠けているものが一つある。行って持っている物を売り払い、貧しい人々に施しなさい。それから、私に従いなさい」

いろいろなおきてをみな幼少の時から守ってきた、とはすごい生き方である。これは神に祝福される生き方であると、一般的には思ってしまう。

も、まだ「欠けているものが一つある」と言つた。本紙十月十二日号の一面に、創立五十周年を機に、『新しい教会』づくりを目指している小教区の記

事が載った。そこにこれからの教会が進むべき姿が示されていたように思う。教会の「器より中身」を見直すことが今、すべての教会に必要なことではないだろうか。イエスを信じて生きるとはどういうことなのかを見直すことも、その「中身」の一つだと思つ。おきてを守ることにきゅうきゅうとし、罪の数を一つでも減らすことに力を使いきることが信仰なのだろう

(Y)



03.10.26

か▼マザー・テレサは一九八二年に二度目の来日をされた時、高校三年生女子の質問に次のように答えている。「日本はとても美しい国で、神さまはとて素晴らしい人々をこの国に住まわせられました。わたしは、皆がもう少し貧しい人々のそばに行くべきだと思えます。…パンに飢えている人々がいることを認識し、自分たちがもっている富を分かち合わなければならぬのです」(『愛——マザー・テレサ 日本人へのメッセージ』女子パウロ会)。「受ける」だけの教会から「受けて与える」教会の姿がここに示されている。先のイエスのことばとマザー・テレサの言葉が重なる。